

1999年6月29日

調査協力のお願い状の例

徳島大学総合科学部学生 大谷^{たかし}崇
石村典子
濱松真理子

私たち大谷、石村、濱松の3人は、徳島大学総合科学部人間社会学科に所属する学生で、いま社会学を勉強しています。この度は、皆様が行っている盲人卓球について、その活動の見学及び資料収集の許可をお願いしたいと思い、書面でのご挨拶というかたちを取らせて頂きました。

私たちは今「社会調査実習」という授業の中で、障害者スポーツをテーマに勉強をしています。今まではもっぱら「医療」や「福祉」といった視点から眺められることが多かった障害者スポーツですが、近年その競技性の高まりを伴った普及とともに、ひとつの「スポーツ」として、「生活」の一側面として、障害者スポーツをとらえようとする動きが広がっています。私たちは、そのように「医療」や「福祉」と言った視点から少し離れて障害者スポーツを見ることで一体何が得られるであろうか、その点に研究心を持って、今回のような障害者スポーツ研究を計画しました。そして私たち3名は、競技の面白さを強く感じた盲人卓球を研究したいと思ったのです。

私たちが具体的に行いたいと考えているのは、皆様の日々の練習や試合風景の見学・観察・私たち自身の参加です。これにはビデオ・カメラによる撮影も含まれます。また、その際見学から得られた知見や収集した資料については、研究以外の目的に使用することはいたしません。ただ、我々は研究を通して得られた知見が、何らかの形で障害者スポーツの普及・発展に貢献するものでありたいと考えておりますので、その意味で研究成果を冊子体の報告書にし、かつ報告会を開くといったことを予定しております。しかしその場合にも、皆様のプライバシーの保護について、名前の匿名化等を用い、できるだけ配慮を尽くすことをお約束いたします。

以上のような次第でございます。どうか、私たちに皆様の活動の見学と資料収集をお認め下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

<連絡先> 徳島大学総合科学部人間社会学科 国際社会文化研究コース
現代国際社会分野所属 四回生 大谷崇

[住所]

[電話]